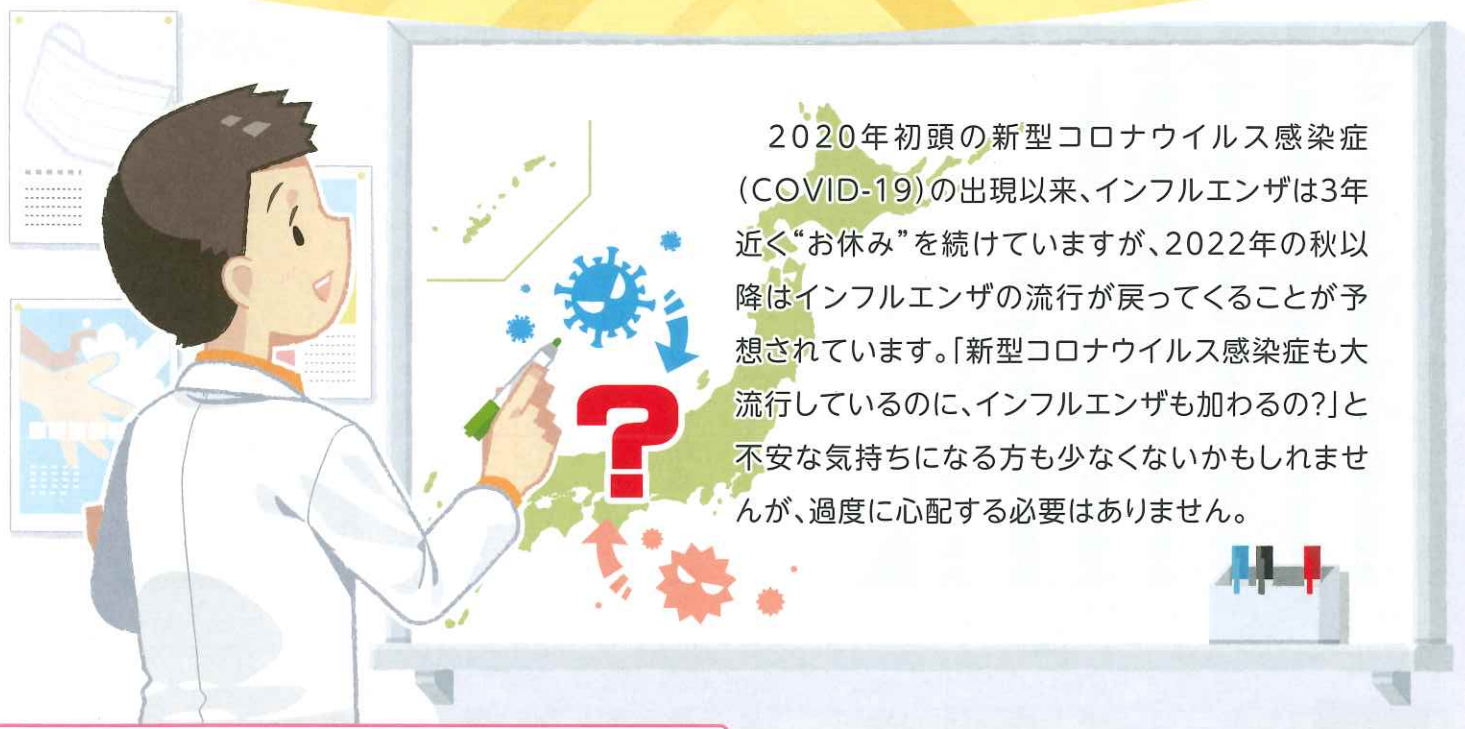


インフルエンザ 2022年～2023年 シーズンに向けた留意点

佐賀大学医学部 国際医療学講座・臨床感染症学分野 教授

青木 洋介 先生



2020年初頭の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の出現以来、インフルエンザは3年近く“お休み”を続けていますが、2022年の秋以降はインフルエンザの流行が戻ってくることが予想されています。「新型コロナウイルス感染症も大流行しているのに、インフルエンザも加わるの?」と不安な気持ちになる方も少なくないかもしれませんが、過度に心配する必要はありません。

» 二つのウイルスが同時流行する?

一般に、二種類の異なるウイルスが同時に大流行することは起きにくいと考えられています。コロナウイルスはCOVID-19の流行以前から、元々ヒトの“風邪ウイルス”の主演でした。風邪をひいた人が10人いれば、そのうちの4～5人はコロナウイルスが原因の風邪なのです。しかし、インフルエンザが流行する時には、一般の風邪ウイルス（≠インフルエンザ）の流行は下火となり、インフルエンザが一人勝ちの状態となります。このように、咳や鼻汁を引き起こす呼吸器系統のウイルス感染症は、1つのウイルスが主演を務めることが多いのです。この3年近くは、「新型コロナウイルスの独り舞台で、脇役はいない」に似た状況でしたが、今秋以降はこの状況に変化が生じ、コロナウイルスとインフルエンザが競いあうか、インフルエンザが一步前を行くか、いずれの状況も考えられます。

感染力は強いが軽症化している
新型コロナウイルス

志村けんさんがCOVID-19による感染

症でお亡くなりになった2020年3月頃

は重症の患者さんも多く、COVID-19は

深刻な感染症として我々の前に現れまし

た。その後、このウイルスはヒトへの感染力

を高めながらも、重症度の低い感染症へ

と変化を遂げつつ（死亡率は2020年

が1・48%、2021年は1・06%、

2022年1月～4月中旬までは0・19%）、

本原稿を書いている2022年8月現在、

佐賀県でも1日2,000人を超すヒトが

かかっていますが、「このウイルス感染症が

重症化する方は認められていない」と言っ

ても過言ではありません。

すなわち、新型コロナウイルスは2年半を

かけて、従来の風邪ウイルスの振る舞い方に

近づきつつあると考えることができます。

こうなると、コロナウイルス以外のウイルス

感染症が戻ってくる可能性が高くなります。

インフルエンザの
流行の可能性が大きい

2022 - 2023年シーズン

オーストラリアでは2022年5月～6月

にかけて（季節的には日本の11月頃に相当）、

3年ぶりにインフルエンザの大きな流行が

認められています。新型コロナウイルスから

インフルエンザにいきなり主役の座が交代

とまでは行きませんが、COVID-19流行

後、はじめてのインフルエンザ感染症の到来

として注視すべき現象です。

なぜなら、従来、インフルエンザウイルス

は地球の北半分と南半分を、熱帯地域を

介して半年ごとに往き来することが知ら

れており、オーストラリアでの今年5月の

流行が、北半球にある日本で今年の秋以

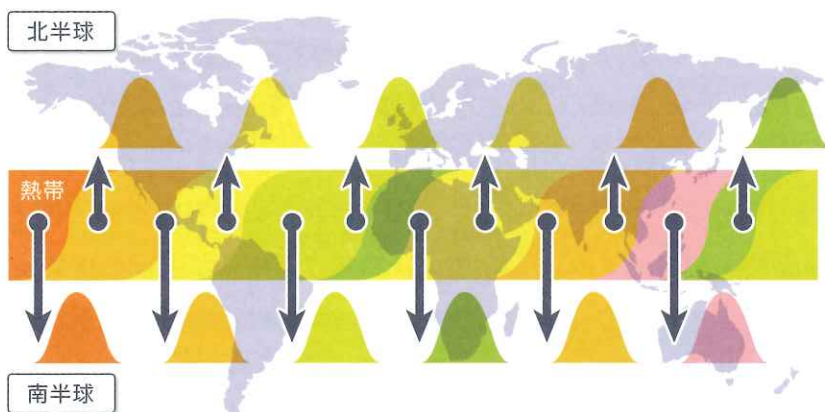
降、再現される可能性があるからです（図1）。

2021 - 2022年、欧米ではインフル

エンザウイルスのうち、A香港型と呼ばれる

ウイルスが小規模ながら流行しています。中国でも、今年になってA香港型が増加しており、オーストラリアで本年度に検出されたインフルエンザウイルスのうち、約80%がA香港型でした。そのため、今シーズンは、わが国でもA香港型の流行が主体となる可能性があります。

図1 地球上でのインフルエンザウイルスの循環



インフルエンザワクチン 接種を推奨します

COVID-19と同様、インフルエンザもワクチンによる予防が重要です。発症予防効果とともに重症化防止効果が期待できます。

図1では南北半球の間の熱帯地域をウイルスが通過する際に、色が変わっている部分があります。これは、1年を通して熱帯に生息するインフルエンザウイルスの自然界での変異を示しています。自身の性格をころころ変える(変異する)のは、コロナウイルスだけではなくありません。したがって、南半球で流行ったインフルエンザウイルスとは少し性格の異なるウイルスが流行し、ワクチンが効きにくいという現象が起きることもあります。

しかし、今季も例年通りに、お子さん、妊婦さんも含めてインフルエンザワクチンの積極的な接種を推奨します。

インフルエンザワクチンの効果は、新型

コロナウイルスワクチンの予防効果より少し落ちますが、毎年接種して予防効果を体内に蓄積することが重要です。11月頃から接種が始まりますが、この時期に仮に何らかの理由で接種できなくても、年が明けても結構ですから、毎年の接種を心掛けるようにしてください。特に、高齢の方にはお勧めします。

感染対策と治療について

インフルエンザウイルスも飛沫を吸入することにより感染しますので、感染防止対策は新型コロナウイルスと全く同じです。すなわち、マスク着用と手洗いです。ソーシャル・ディスタンスも勿論有効です。これらについては、県民の多くの方がこの2年半で身に着けていると思いますので、これまで通りの感染対策をしっかりと行ってください。以前より、インフルエンザは忘年会シーズンの宴会感染症という見方もありますので、三密を避ける重要性もコロナと

同じです。

先ほど述べたように、今年の秋以降は、COVID-19とインフルエンザの流行が混在する可能性も否定できません。両者は治療薬が異なりますので、発熱した方では両方のウイルスに対する検査を行うことも考えられます。この点も含め、2022年のインフルエンザシーズンは不確定要素が多い状況です。

しかし、わが国のインフルエンザ診療は、早期診断、早期治療の体制が確立しており、世界の中でも進んだ国の一つですのでご安心下さい。また、優れた抗インフルエンザ薬も複数ありますので、心配を先走りさせることなく、従来通りの感染対策を行っていただきたいと思います。

